

第41回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成28年5月11日（水）
午前9時～午前11時30分
- 3 場所 多摩区役所11階 1103会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（議長）、垣内委員（副議長）、犬飼委員、岩田委員、小泉委員、小嶋委員、関委員、高田委員、林委員、藤嶋委員
 - (2) 事務局 市民文化局市民文化振興室
中村室長、高橋担当課長、白石担当係長、渡邊主任
 - (3) 事業担当 教育委員会 日本民家園 小林園長、澁谷課長補佐
- 5 議題
 - (1) 文化アセスメント事業ヒアリング（日本民家園）
 - (2) 高齢者による音楽イベント事業（プラチナ音楽祭）事業評価について
 - (3) 平成28年度文化アセスメント対象事業について
 - (4) その他
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

議題1

澤井議長 最初の議題として、日本民家園からのヒアリングを実施する。まず資料について説明をお願いしたい。

事務局 課題資料1-1は昨年度行ったフィールドワークでいただいたレポートをまとめた。一番上の太枠の中が主な意見を抜粋した。〈企画〉については、極めて貴重な文化財で、今後オリンピックパラリンピックを見据えて、ソフト面からも活用していく必要があるとの意見があった。〈運営〉については、文化財としてはかなりよく維持管理されている。お客様についても、中高年の男女や、若い世代、外国人など客層の幅広さを感じたという意見があった。〈広報〉については外国人の視点から見ると、

外国語アンケートやパンフレットの設置場所、設置方法に工夫の余地があるのではないかという意見があった。ホームページについても、アピールをもう少しできるのではないかという意見もあった。個別のイベントの感想としては、たくさんのボランティアの運営があったということや、〈サマーミュージアム〉については自然に昔の生活の雰囲気を感じる良い企画だった、同じくサマーミュージアム広場で行われていたマイクや音楽が聞こえてきたので、雰囲気作りへの配慮が必要ではないかという意見があった。〈人形浄瑠璃〉については、重要文化財を活用した見事な舞台になっていたということで高評価をいただいた。〈五箇山コキリコ〉についてはイベントとしては良い雰囲気だったが、区民祭とのさらなるコラボレーションを期待したいという意見もあった。〈民家園まつり〉、〈夜の民家園〉についてもそれぞれ古い建物を生かしたよい企画だったということだったが、若干開園時間の設定が夜の民家園については早いという意見もあった。議題資料1-2については、各委員の皆様からいただいた質問事項を民家園に回答を作成していただいたものである。これについて民家園から説明し、そのあとに御質問いただきたい。

事業担当 運営体制に関する御質問について、まずボランティアの総人数、外国人対応人数、語学対応圏は足りているかという御質問については、ボランティアの会として炉端の会があり、260名あまりが曜日ごとに活動している。ひとりに限ると隔週・平均月2回で活動している。毎朝ミーティングをして円滑に運営している。英語については英語ガイドチームがあって、英語の得意な方が要望に応じて対応している。ドイツ語については、ドイツ人会員の方が対応している。

運営上の課題としては、非常に人数が多いので、毎月例会を開催しているが、全員参加ではないので、連絡事項の周知徹底には時間を要することがあげられる。近隣の大学との連携としては、生田緑地の指定管理者が、専修大学の課題解決型インターンシップを受け入れて、専修大学の学生が生田緑地のガイドツアーをするという中で、民家園も紹介いただく機会があり、全面的に協力した。また、多摩区の観光ガイドボランティアと炉端の会を両方活動されている方がいて、民家園は専門的な部分もあるので、炉端の会の会員でもある方が対応している。社会教育委員会議の日本民家園専門部会は学識の方が4名、建造物の修理や建築史、民俗学、博物館学、学校教育の方は、小学校の社会科教育研究会の推薦の方、中学校長会の推薦の方、いずれも校長先生が入っている。それから社会教育関係、家庭教育関係、市民公募の方2名という構成である。

園の運営組織と、生田緑地全体の運営組織であるが、学芸統括業務については川崎市の直営である。運営管理・広報業務については、指定管理者が担っている。指定管理者は民家園だけではなく、科学館、岡本、公園の管理を含めて、横断的な管理運営を実施している。市と指定管理者は密に連携を取り合っている。

来園者の推移については、昭和40年代50年代には移築復原が続き、話題性があったうえに更に無料ということも加わって、20万人を超えていた時代もあった。その中で少しずつ減りながら、平成に入って10万人を割る状況、平成10年が8万人まで下がった。そこから入園者を増やすために園だけでなく民家園で活動して

いる炉端の会や民具製作技術保存会とさまざまな工夫をして、少しずつ改善しながら近年は増加傾向にあり、平成27年度は118,887人である。多摩区民祭は天気が悪く前年より3千人以上減らしたが、そういうところも含めると高い水準は維持できたのではないかと考えている。平成26年度は124,527人と平成で一番多かった。平成27年度は平成で3番目。平成で2番目が科学館のリニューアルの年だった。なお、有料の人数は26年度より27年度の方が増えた。そういう意味でも広報の効果等が現れてきていると思う。来園者の内訳については、平成21年度の調査で市内40%県内22%都内27%というような割合である。例えば岡本太郎美術館に比べると市内在住の来園者の割合が高い。

来園者数データからみえる傾向と課題等は、有料の入園者・外国人の入園者が増えてきていることがあげられる。土日祝日は、このGWも連日千人を超える状況で、民家園の中は園路が狭いので、イベントによってはそこに集中してしまい、安全面も考えなければならない。また公園の駐車場は限りがあるので、この連休中は10時前には満車となっていた。来園者を今後増やしていくという中では、そういうところに対応したサービスの充実が課題となっている。今後、来園者を増やし収益を上げるには、首都圏での認知度の点でまだまだ工夫の余地があると思う。27年度はテレビ朝日の朝の天気予報で紹介され、そのあと目に見えて入園者が増加した。直近の数週間に限っても例年に比べ3千人は増えた。テレビ新聞等で取り上げてもらうことによって多くの方においでいただける。今まで知られてなかった層に浸透できる。そういう意味ではポスター等も県内都内に展開していくとさらに効果的ではないか。また、団体利用の増加については生田緑地全体での観光振興というところが必要ではないかと考えている。

地域にもっと知られる工夫として、多摩区役所を通じて地域との連携を強化していきたい。また来年度50周年なので、これを契機に内容サービスを充実していきたい。催し物、特別な企画で入場者数がどう推移するかという点については、やはり催し物は入園者数に大きく影響していて、民家園まつりや区民祭など大きなイベントの際には、無料でもあり晴れていれば6千人以上の入園者がある。夜間公開も、先日4月の1、2日と行ったが千名を超える入園者があった。なお野外博物館であるので、天気による影響が非常に大きく、週末の天気次第である。桜の時期や紅葉の時期には大勢の方が来園される。

予算決算については、歳入が平成27年度は23,996,679円、歳出131,717,306円であるが、複数年にわたる耐震補強工事は除いている数字である。平成26年度決算額と平成27年度予算額の差は、運営管理事業費については、新総合防災システムの保守管理委託が加わったこと、施設整備事業費については、屋根の葺替・耐震補強工事を行う古民家とその年で異なるので、その年によって違うこと、平成26年度で新総合防災システム導入工事が完了したことによる。歌舞伎の運営について、雨の日はどうするかという点だが、文化の日の11月3日は晴れの特異日であり、今まで雨が降ったことはない。実際に雨が降ったら小雨なら雨合羽を配ったり、大雨で上演できない場合は規模を縮小して歌舞伎体験のワー

クショップを行うことも考えている。(平成27年度の)収入は29万2千円だった。予算は報償費が24万円。

生田緑地のメルマガについては370人が登録をしている。

市民ニーズは、アンケートや、ボランティアの炉端の会や民具製作技術保存会の方々との協力者会議で意見を集約して、情報共有している。園路の状況がよくないので、今後整備していく必要があり、重点事項として考えている。今後は車いすやベビーカーでも通りやすいように整備していきたい。

澤井議長 それでは、委員から質問等あればお願いしたい。

園路の整備計画はあるか。

事業担当 総合防災の古い設備を撤去することが今年度予定されている。園路整備については、予算要求で上げたいが、金額が大きくなるため、数年計画となるものと考えられる。

小嶋委員 生田緑地の駐車場には、大型の観光バスも止められるか。

事業担当 生田緑地東口の駐車場には、平日数台は止められる。土日は一般車両の妨げになるため、基本的にはお断りしている。

小嶋委員 平日のお客さんを増やすには、はとバスなどの観光ツアーで来てもらうとよい。

事業担当 青少年科学館と藤子ミュージアムには、何回かツアーが実施されているので、取り入れたい。

関委員 園路はできるだけ早く整備してほしい。

現在の体制でどの位までの入園者数を想定して対応しているのか。ボランティアも頑張っているが、どれ位を見込んでいるのか。年間13万人をもっと増やすのか。

事業担当 現体制で休日は目一杯な状況。スタッフの増強が必要と考える。

平日の団体利用を増やすなどして、利用者数を増やしていきたい。

関委員 無料入場者が多いが、どういう人が無料になるのか。

事業担当 無料入場の内訳は、中学生以下と65歳以上の市内在住者、学校の団体利用も多い。

関委員 民家園まつりでは売店が3時頃に引き上げていた。せっかく来たのに食べる所がないと残念なので、改善してほしい。

林委員 売店、出し物が早く店じまいしている。午後5時まで開園だと思うが、午後4時に片付けているようだ。ボランティアだから仕方がないという面もあるが、ボランティアの良いところ、悪いところが出ている。ボランティアの事情で4時に終了になるならそのように明記するとか、閉園時間までボランティアをお願いしたほうがよい。閉めているという雰囲気は寂しい。

澤井議長 入園時間と開園時間は違うのか。

事業担当 園内は広いので閉園30分前までに入園してもらっている。

犬飼委員 ボランティアは閉園前に帰るのか。閉園後も後片付けをしているのか。浄瑠璃が終わった後に園内を回っていたら、囲炉裏などが終わっていたので、疑問に感じた。

事業担当 ボランティアは午後3時半まで。

高田委員 生田緑地の観光振興のホームページと民家園はリンクしているか。以前に見たときはリンクしていなかった。

事業担当 生田緑地のホームページの中に民家園へのリンクがある。

- 高田委員 観光振興について、何をどうするか、民家園協議会のみならず、生田緑地全体で検討する場はあるか。
- 事業担当 月1回、生田緑地全体の運営会議がある。指定管理者、整備事務所、3館の施設長が集まっている。内容によっては、経済労働局の観光担当部署などと打ち合わせをしている。これらよりもっと広く生田緑地マネジメント会議があり、多摩区役所などの関係者も入っている。色々な話し合いの場がある。
- 高田委員 民家園は開園して50年になるが、大型バスが週末に停められない。具体的な課題解決の道筋はできているのか。民家園の協議会などでは何が話し合われて、どのように反映されてきたのか。課題解決に向けてステップを踏んでいく必要がある。
- 垣内副議長 民家園のキャパシティの限界を感じる。イベント時は人が多くて、限界か、限界を超えている。一定程度の基準、どういう方針でどれ位の人を入れるのか、を考える時期に来ていると感じる。藤子ミュージアムは、1日2千人、年間来場者数を50万人に設定し、お客さんの満足度を上げてリピーターを増やす戦略を取っている。ある程度のキャパシティを見込んで戦略を考える時期ではないか。
- また、観光振興なのか、地域のミュージアムなので地域住民サービスなのか。どちらを優先するのも考えるべき。遠くから多くの団体客がバスで来て、花のきれいな時期に地域住民が見られないというのはいけない。あわせて、観光戦略としては、地域にお金を落とす仕組みがないように思われる。
- 駐車場を生田緑地内に設置するのは難しいので、外に駐車場を借りるなど考えるべきではないか。生田緑地の指定管理者が色々と努力をしていると思われ、そこに期待したい部分はあるが、その前にミュージアムとして、誰にどのようなサービスをするのか優先順位をつけてほしい。地域の子どもたちが無料で利用することは大事なことなので、施設の方が主導権を持って、指定管理者にリクエストしていく必要がある。長年掛けても解決できなかった問題なので、難しいとは思いますが、内部で検討してほしい。
- 夜の民家園では遅くまでボランティアをやり繰りしていたので、ボランティア関係者とも相談されるとよいと思う。お蕎麦屋さんは夜遅くまで開店していたが売り切れていたもので、充実させるとよい。お客さんの満足度も上がり、収益も上がる。
- 林委員 食べる所が少ない。持ち込んで座って食べる所も少ない。観光振興であれば、その辺りを検討してほしい。
- 垣内副議長 園路整備について、文化財の建物だけが保護されていれば良いのではなく、周りの景観の観点も十分考えてほしい。ベビーカーの人にも来てもらいたいというのは分かるが、文化的価値を十分に認識した上で、優先順位をよく検討してほしい。
- 首都圏で、重要文化財があれだけ集まっているのはない。整備にあたっては、景観の価値を認識した上で検討してほしい。
- 澤井議長 園路はぬかるまなければ良い。前段の入園者数のキャパシティは想定しているか。
- 事業担当 無料の民家園まつりや区民祭では6千人ほどが入園するが、その時に民家で伝統芸能などのイベントを打つと、非常に危険だと思う。そこはイベントの打ち方などを工夫する必要がある。

- 澤井議長 民家園は観光施設ではなく公立博物館なので、法的な規制や博物館としてやるべきことと、観光とのバランスには苦勞されていると思う。
- 関委員 人形浄瑠璃の会場づくりと場の雰囲気はすごく良く、貴重な出し物。歌舞伎は色々注文はあるが、浄瑠璃は民家園の売りとして、年1回ではもったいないので、回数を増やしてほしい。
- 民家園は、博物館、観光のほかに憩いの場としての価値もある。来場者にはアベックも多いので、それを踏まえて企画も考えてほしい。生田緑地の素晴らしさは南部に知られていないので、憩いの場としても頑張してほしい。
- 高田委員 博物館と観光資源は両立可能なので、スピードアップして取り組んでほしい。
- 関委員 囲炉裏の昔話は、地元とのコラボレーションで川崎の民話も取り入れてほしい。
- 小泉委員 市の観光振興プランの委員をしている。生田緑地もプランに大きく位置づけているが、大型駐車場と生田緑地の間に商店街を挟んで、観光客にそばを食べてもらうなど、観光は指定管理者がしっかり窓口になり、そことうまく連携しながら市にお願いしてほしい。駐車場を園に求めるのは厳しい。
- 小嶋委員 観光、文化、地域への還元は、漠然とどれ位の割合で考えているか。
- 観光に力を入れすぎて、京都のように観光バスや観光客が多いのも問題だと思う。運営者は収入が多ければ良いだろうが、人が少ないという贅沢さもある。
- 事業担当 適正値はあると思う。民家園に来て、その良さを味わってもらえる範囲が良い。狭い園路に人が集中するのは、危険である。
- 澤井議長 無料時代に20万人の来場者があったとのことだが、人が多すぎたので有料化したのか。
- 事業担当 詳細は不明であるが、当初は3棟からスタートした。以後、内容を拡充させたので受益者負担として有料化したのではないか。
- 藤嶋委員 初代民家園長の「日本民家園物語」を読んで感動した。「日本」をつけた意味が今、光っている。日本でこうした田舎風の建物が取り壊される中で、民家園はとても貴重なものだと思う。囲炉裏で火をくべるなど、使いながら保存し、イベントや事業と連携している独特のミュージアム。横浜三溪園に関わっており、GW中にイベントをしたが、来場者はリピーターというより、近隣で初めてという人が多かった。民家園もそういう人が多いのかと思う。先ほどのテレビの放映で人が増えたとのことで、イベントの打ち方、広報で人は増える。学校教育と連携することは大切で、そこに人を増やせる余裕がある。細かいイベントを打ってもいいが、浄瑠璃や歌舞伎は少し物足りなかった。
- 岩田委員 毎年の予算で、集客の層や観光とミュージアムのバランス、PRなどの課題があると思うが、そういった課題に対応するための計画を立てるのか。
- 事業担当 事業評価を21年度から開始し、色々なご意見をいただいて改善するようにしている。3ヵ年の中期目標に加え毎年事業計画を作成し、実績をまとめ、事業評価を受けており、公開もしている。
- 岩田委員 ボランティアが午後3時半に帰る理由は。
- 事業担当 活動時間が無理のない範囲ということで、9時半に集まってミーティングを行い、

10時から3時半まで活動してもらっている。

岩田委員 ボランティアがいない時間帯の対応はどうするか。研修・教育のシステムは。
事業担当 ボランティアの活動時間については、今後、話し合ってみたい。毎年ボランティアを募集し、4回研修を実施して、希望者を登録している。

澤井議長 ボランティアは無償か。

事業担当 完全無償となっている。

澤井議長 それでは、質疑も出尽くしたようですので、このあたりで議題1を終了する。
民家園の皆様、ありがとうございました。

議題2

澤井議長 続いて、議題2 平成27年度文化アセスメントの報告書のうち、高齢者による音楽イベント事業・プラチナ音楽祭について説明をお願いしたい。

事務局 議題資料2-1を御覧いただきたい。これはプラチナ音楽祭を見ていただいたり、担当者にヒアリングした結果をまとめ、点数化したものである。事業の目的については、社会的な課題でもある、高齢者の孤立防止や社会参画について、文化芸術の力を活用した事業であり、社会情勢に即したものであるということで、満足度が高いので4としている。

達成度、達成手段の妥当性については、出場者も多く、内容的にも充実していたということで、おおむね満足ということで3としている。

文化芸術性については、高齢者でしかもアマチュアということもあってオーソドックスな公演だが出演者と客席が一体となって歌うような時間もあったので、一体感を感じられるような公演だということで3をつけている。

市民参加については700人を超える参加者がいたということだが、今後もさらに広げていく必要があるということで3にしている。

満足度についても、出演者・鑑賞者とも満足度が高いということで、実際アンケートでも公演内容に対する満足度が84.2%あったということである。

周知度については、定数の28団体に応募が25団体で達していなかったということで、更に周知していく必要があるということで2をつけている。

効率・効果については、観客からいつか自分もやりたいという声があったり、波及効果があるということと、ホールの活用の仕方としても評価できる。連携協働については、市の直接運営ということで、今後地域団体の運営参加が望まれるということで2にしている。費用の効率化についても収入が出演団体の参加費のみということで歳入確保をどうしていくかということもある。これが基礎的な資料となる。

議題資料2-2の方が最終的に市長に提出する報告書の形態になっているので、こちらの内容等について御意見をいただきたい。資料2-2の3ページを御覧いただきたい。今まで説明した内容を文章化している。

事業の目的については、高齢者の生きがいくくりと社会状況に即したものになっている。

芸術文化性については、高齢者による音楽活動の活性化につながるということと、音楽のまち川崎を育てる人々の育成にも貢献しているということで、ステージマネジメントについても非常にスムーズだとしている。

市民とのかかわりについては、参加者、鑑賞者とも満足度が高いということだが、一方で出演団体数の問題であるとか、参加分野、合唱団体や邦楽分野に偏りがあるということで、それについても出演団体の多様化が必要だとしている。

効率・効果については、ミュージア川崎という素晴らしい舞台を設定したということで出演者のモチベーションの向上にはつながって、ホールの活用の仕方としても評価できるということだが、運営体制として市で直営ということなので、ここも改善の余地があるとしている。

次のページの評価だが、総合評価は空欄にしているが、全体的な評価としては事業としての評価はあるのではないかとということだが、今後さらに改善の余地があるとしている。

最終的な提言としては、現在4つほどたたき台としてあげているが、1つ目は事業の波及効果をさらに高めるためにも、プログラムに参加団体の活動内容や活動場所を記載するなど、新たな参加者を増やす試みが求められる。

2番目として、地域の老人クラブへの周知など、広報の幅を広げていく取り組みや、応募条件の緩和など、参加団体の固定化を避けるための取り組みが必要となる。

3つ目として、ボランティアの活用や音楽大学生、文化団体などの企画運営への参加など、事業を支える主体を増やしていくことにより、事業の広がりや世代間の交流につなげていく体制づくりを求める。

4つ目として、入場料、スポンサーの獲得ということで、収入は参加団体の一団体5千円というところなので、入場料を取るべきとか無料でよいなど、委員の皆様の中でも両論あった。鑑賞者について無料ということで、多くの観客に来てもらうという趣旨でヒアリングの結果が出ている。こした議論を踏まえて、振興会議の提言として入場料について言及するかや、ほかの収入の模索やスポンサーの獲得などを提言するかなど、会議で御意見をいただきたい。

澤井議長 満足度4が4項目あり、高評価になっている。

それでは、委員から質問等あればお願いしたい。

高田委員 今年度の応募状況はどうなっているか。

事務局 例年5月に募集していたが、今年度は、団体の年間スケジュールに組み入れやすいよう、募集を4月1日から開始している。応募締め切りは5月13日なので、改めて報告したい。

高田委員 応募が増えるのか憂慮している。応募条件である10名以上のグループは多いが、あのような舞台で発表となるとストレスが溜まるので、簡単にミュージアに参加しようとは思わない。効果は波及しないのではと心配している。

澤井議長 提言にある「応募条件の緩和」のイメージはあるか。60歳以上10名を5名にするのか。60歳という年齢を下げるとか。この辺を御議論いただきたい。

林委員 60歳以上の人は自分がシニアだという感覚はない。特に女性は自分をシニアだと

思いたくない。高齢者、シニア向けと受け取られないよう、マーケティング的な意味だが、名称を考える必要がある。

藤嶋委員 副市長は、川崎市は若い都市だといっていたが、そうしたことは意識しているか。
事務局 大都市間の比較では抜群に若いが高齢化していくことは確実で、今後を見据えてきちんと実施する必要がある。

垣内副議長 参加した700人はどういった方か。オーケストラの観客は高所得の高齢者が多く、60代にボリュームゾーンがあり、80代までいる。ここに参加する合唱団は裕福な人が多いのか、一般的な普通の市民がいらっしゃるのか。直営でかなりのお金を掛けて、裕福な方が余暇を楽しむ事業になっていないか。経済社会に格差が生じている中で、こういうイベントは誰をターゲットにしているか気になる。事業目的の妥当性の評価は「4」であるが、対象セグメントが偏っていないか。

関委員 出演団体は北部が多く、川崎区と幸区は1団体ずつと少ないが。
犬飼委員 麻生区からの出演が多い。富裕層ではないがゆとりがあり、趣味でやっている人が多い。シニア世代を対象にした事業は多く、市が援助するのは良いが、なるべくスポンサーを取って、そこから収入を得る方に移した方が良く思う。

林委員 アマチュアなので入場料は取れない。一団体の参加費の5千円は高くない。

澤井議長 この事業は、高齢者の孤立防止に役立っているか。

垣内副議長 事業自体は大事だと思うので、入場料無料で見ていただく人として、デイケアの利用者をお呼びするなど工夫してはどうか。出演料自体は安いと思う。

澤井議長 出演者が特定の区に偏らないようにする必要がある。

高田委員 出演団体の固定化を懸念している。それを避けるためにどうすべきか、という話につながる。

関委員 知っているコーラス団体の人に聞いたが、プラチナ音楽祭が知られていない。大体、年齢は60歳以上なので、下げたからといって増えない。平成28年度のアセス対象候補になっている地域振興課の音楽イベントに対する趣旨が3つとも違う。幸区は音楽に親しむ、高津は人材を育成する、多摩は地域の魅力を発信する。まだまだ、幸区は音楽に親しむ区民を広げたいというのが課題か。

澤井議長 デリケートな問題なので表現は難しいが、一部の恵まれた特定の層ではなく、できるだけ裾野を広げて、高齢者に幅広く参加してもらおう仕組みが必要、という表現にしてみてもどうか。具体的な表現の材料はあるか。

小嶋委員 会場に来ることも参加。客を増やすことで意識が上がる。音楽の力は強いようで、そうでもなかったりする。音楽に対する過大な期待があるが、そうではないと思う。一方で、演奏はしないが、聴くのは良いという人がいる。音楽の関わり方も両面からやっていると。高齢者になったからといって、人前で演奏するのはハードルが高い。その辺りを提言に入れてほしい。

澤井議長 鑑賞者を増やすために、オールアマチュアではなく、スポンサーをつけてゲストシニアコーラスのグループを呼ぶのはどうか。

藤嶋委員 地域密着で施設への慰問活動をしているグループもある。60歳を過ぎるとまた演奏を始めたいくなる。演奏の裾野が広がり、その最高の舞台がミュージアということで、

1つのモデルにはなると思う。

- 高田委員 老人の音楽グループは多いが、活動目的は多くが趣味。ミューザに行って演奏しようという団体は、それほど多くない。実際に抽選になるほどの応募がない。もっと若い人でも良いだろうし、アイデアを出してブラッシュアップができる。そうすれば目的に近づけるが、今のままでは、5年後にもう止めようとなりかねない。広報も市政だよりが中心で、努力の余地がある。
- 澤井議長 提言について、入場料はなじまないの、スポンサーを獲得することでよいか。また、提言2について、参加団体の固定化を避けるためというより、市内全域から幅広い高齢者の参加を促すための運営改善ということよいか。
- 垣内副議長 参加者も鑑賞者を幅広くする。入場料を取らずに、鑑賞という形で参加者を増やすこともよいのではないか。
- 関委員 みなとみらいホールで同様のイベントを実施している。私が住んでいる町内のグループも参加している。ここに参加すると、良かったところが表彰され、審査員からの評価やアドバイスが後日返ってくるので、次も頑張ろうとなるようだ。何が良かったかという表彰状も出る。
- 澤井議長 コメント・アドバイスはどうか。
- 垣内副議長 審査をするのであれば、入場者が投票するのが一般的に喜ばれる。
- 林委員 横浜の例は、どのような形でフィードバックされるのか。その場か。
- 関委員 後日、送られてくるようだ。改善点も指摘される。
- 澤井議長 アドバイス制度はどうか。参加のモチベーションにつながるか。
- 高田委員 逆に引くのではないか。
- 事務局 現状では、ミューザで演奏すること自体がモチベーションになっている。いずれはミューザに出たいというグループもあると聞いている。
- 垣内副議長 3年目だが、応募数は増えているのか。
- 事務局 数の変動はそれほどない。
- 林委員 かわさき市民第九コンサートは応募が多く、シニアの出演が多いようだが、公募の仕方が違うのか、プロとの競演が良いのか。
- 事務局 団体を作るハードルの有無かもしれない。何十年の歴史もあり、若い人とのパイプもある。
- 高田委員 どのグループも目標設定をして活動している訳ではない。メンバーが変わると技量も落ちる。若い人と違って、簡単に目標に突き進めない。志の高いグループがあることは否定しないが、一般的にそれほどレベルは高くない。色々と工夫しないといけない。
- 澤井議長 企画・運営への参加は、音楽大学だけでいいのか。シニアにやってもらってもいいのでは。
- 事務局 今年度は老人クラブ連合会にも周知している。
- 関委員 垣内先生がおっしゃったように、参加グループの皆さんがはたして、社会的な課題である高齢者の孤立防止や社会参画と結びついているのか。生きがいというのなら分かるが。

澤井議長 4ページの評価理由と提言はもう一度書き換える。幅広く企画・運営に携われる層を増やす仕組みを考える。事務局で「幅広い出演者・鑑賞者」、「スポンサーの獲得」、「事業の裾野を広げる」という視点で文章を修正し、委員の皆様に見ていただく。また、目的設定の妥当性については、すべての高齢者が満足というのは難しいので、「3」でどうか。事務局で検討していただきたい。以上で議題2を終了させていただく。

議題3

澤井議長 続いて、議題3 平成28年度文化アセスメント対象事業について内容を審議します。それでは、事務局から資料の説明をお願いしたい。

事務局 議題資料3を御覧いただきたい。今年度、7つ事業をあげていて、1番目から5番目は昨年度提示したものと同じで、6番目と7番目は新規で追加したものである。

1番目がさいわいハナミズキコンサートで、市民と区が協力して作り上げる音楽コンサートで、こちらもミュージアを会場として実施している。

2番目が高津区「音楽のまち」推進事業で、区民や地域の多様な主体との協働により、様々な音楽イベントを開催するという事で、主に6つのコンサートを抱き合わせて1つの事業として450万円計上している。

3番目が多摩区の音楽による区の魅力発信・地域交流創出事業ということで、こちらもたま音楽祭、生田緑地☆星空コンサートを1つにまとめた270万円ほどの事業である。

4番目のプラチナファッションショーは市民文化振興室で実施していて、来年の3月に高津市民館で開催する。

5番目の川崎シンフォニーホール管理運営事業は、ミュージア川崎の指定管理の事業で、指定管理料が7億4千万円で、設備の維持管理料なども入っているので大きくなっているが、指定管理の中で行っている事業としてはフェスタサマーミュージアや海外オーケストラによる演奏会、ミュージアの日、市民の晴れの舞台というのが4つある。

6番目としては、かわさきジャズでこちらは平成27年度にスタートして今年度で2回目である。事業の所管としては市民文化振興室だが、かわさきジャズの実行委員会に1千万円ほど負担金を支払っており、国の補助金1,500万円、3,400万円ほどで事業を実施している。9月下旬からプレイイベントが始まって、メインのイベントは11月になる。ミュージアや新百合ヶ丘トウェンティワンホール、クラブチッタ、ラゾーナなど市内全域で12公演程実施している。

7番目は施設系ということで、アートガーデンかわさきを入れている。リパークの3階にあるギャラリーで文化財団に貸付という形で補助金を出していて、補助金が8,300万円、利用率が94%でかなり高くなっているが、貸館のほかに、文化財団独自で市民向けの作品展などを実施している。

以上の7事業だが、市の文化芸術事業の中から、すでにアセスをした事業を除い

て、残った事業の中から主な事業を7事業提案させていただいた。

- 澤井議長 今回の説明に対し、御意見、質問があれば。
- 藤嶋委員 アートガーデンかわさきは、どのような企画展を実施しているのか。
- 事務局 文化財団が、かわさき市民アンデパンダン展を実施。6月～7月に市民から作品を公募し、入賞などの優劣はつけずに、最終的に講評会を開催し、プロの講評やアドバイスを受けられる。あとは貸し館がメイン。
- 澤井議長 ジャズは2年目か。内容的にモントルー・ジャズを継承しているのか。
- 事務局 2011年から4年間、モントルー・ジャズフェスティバル・ジャパン・イン・かわさきを開催した。そこでの成果を引き継ぎ、より川崎らしさを打ち出し、多様性とコラボレーションをコンセプトにした。併せて、アジアに世界に向けたジャズフェスティバルにしようということでスタートした。興行的にも成功し、初年度で「JAZZ JAPAN AWARD 2015」の「ベスト・ライブ・パフォーマンス賞」を受賞し、いいスタートを切った。市内の洗足音大や昭和音大、市内の音楽団体、各種団体と実行委員会を組んで、実行委員会と市が主催している。
- 澤井議長 形式的には2年目だが、実施には過去からのノウハウや運営体制の蓄積があるのか。
- 事務局 そうした蓄積があり、体制についてはさらに広げている。
- 岩田委員 アートガーデンの利用率94%で高いが、収入はどれ位か。
- 事務局 市からの支出額ほどの収入はない。1千万円程度と思われる。
- 高田委員 音楽が多いが、他のジャンルはないか。例えば産業に絡んだものとか。ガラス工芸も芸術ということだったが、事業が終了したので、真に受けることはなかったが、7つリストアップしてもらったが、他にはないのか。
- 事務局 文化財関連として、橘樹郡衙遺跡なども検討したが、整備中でアセス対象としての熟度は足りていない。各区については、もっとたくさんの事業があるが、代表的な事業を1つ上げている。
- 澤井議長 毎年2事業実施し、1事業は音楽で、もう1事業は非音楽を実施している。非音楽のジャンルが少ないので候補を増やしてほしい。
- 事務局 映画のまちかわさき事業やフィルムコミッション、映像のまちかわさき推進フォーラムなどもある。
- 林委員 ミューザは、川崎市だけではなく、色々な所からお金が出ていて、アセスをして市から言っても内容を変えられないという話もあった。総予算の中で、川崎市の負担割合が大きいものはどれか。
- 事務局 ミューザとかかわさきジャズ以外は、国などからの補助金が入っていない。プラチナファッションショーは、企業からの協賛金が入っている。
- 澤井議長 アートガーデンよりは、市民ミュージアムはどうか。非音楽で何かあるか。
- 事務局 アートガーデンは団体の活動目標になっており、関係者の来場が多い、貸館がメインなので、評価対象としては薄いかな。市民ミュージアムは、4月から指定管理者を募集している。しんゆり映画祭は実施済み。映像の人材育成事業や高津区ふるさとアーカイブ事業がある。

- 林 委 員 かわさきジャズの課題として、「安定した収入源の確保」とあるが、国からの補助金は継続してもらえるのか。
- 事 務 局 3年ないし5年の事業計画を提出するが、採択は単年度。
- 澤 井 議 長 大山街道ふるさと館はどうか。
- 事 務 局 大山街道のマスタープランがあり、位置づけられている。ふるさと館自体の勢いはないが、関連したNPOがいくつか立ち上がっている。
- 澤 井 議 長 大山街道ふるさと館は、かわさき宿交流館と似ているか。ミュージア管理運営事業は、大きいのでどれか1つに絞らないといけませんが、今回は難しいか。国際交流なども含めて、音楽以外のジャンルを増やしてほしい。
- 垣内副議長 文化アセスは、ポジティブ評価と思っている。大山街道ふるさと館は、勢いが無いとのことだが、事務局からのアセスの推薦事業はあるか。
- 澤 井 議 長 音楽ジャンルと非音楽ジャンルの2事業のイメージ。次回までに事務局でリストを再作成してほしい。
- 澤 井 議 長 他に、質疑等がないようであれば、これで議題3を終了する。事務局から今後のスケジュールなど、連絡事項があればお願いしたい。
- 事 務 局 次回の振興会議については、6月中旬から下旬を予定している。日程調整のメールを送る。
- 澤 井 議 長 それでは、本日の議事についてはこれで終了させていただく。

(議事終了)